



CLUB BULLETIN

R. I. 第 2530 地区

いわき勿来ロータリー・クラブ

会長 富澤 藤利
幹事 岩元 義春
SAA 吉野 文敏
会報小委員長 浜津 真也

○例会日 毎週水曜日(12:30～13:30) ○事務所 いわき市植田町中央一丁目6番地の9
○例会場 ホテルミドリ 〒974-8261 ホテルミドリ内
TEL0246-62-3737

人類に奉仕するロータリー

第 2691 回 例会 平成 29 年 5 月 17 日(水・曇)

2016～2017 年国際ロータリーのテーマ

会員卓話

嵐 繁雄 青少年奉仕委員長

◎会長報告—富澤藤利会長

皆さん、今日は。先週の例会は河原田秀夫先生をお招きしまして、教養についての卓話を頂戴致しました。久し振りに私も教養課程の講義のような雰囲気味わうことが出来ました。お聞きした中で私が印象に残ったのはアメリカで製造業の仕事につくのに必要な知識、技能は昔より格段に難しくなっていて大変高いスキルが必要だということです。トランプ大統領が言う保護主義の貿易で本当に狙い通りの結果が出せるのか私も興味のあるところであり。注目して参りたいと思います。次に当クラブの定款・細則について5名の委員の方に見直しをして戴いておりました。5月10日の理事会で審議の結果改定案が承認されました。委員の皆さん長期に渡っての改定作業誠にありがとうございました。必要な手順を行い皆さんに改定版をお届けすることになります。私からは以上です。

◎幹事報告—岩元義春幹事

- ・ガバナー事務所より2016-2017年度地区補助金完了報告書提出依頼が届いております。
- ・5月21日地区協議会開催時にエコキャップ回収のお知らせが届いております。回覧中です。
- ・いわき平東ロータリークラブより週報が届いております。いわき分区より新会長幹事会のお知らせが次年度会長に届いています。
- ・北茨城ロータリークラブより週報が届いております。
- ・5月20日(土)第45回いわき市植樹祭新舞子浜公園で開催される予定で、会長エレクト、鈴木副会長、私岩元の3名で参加して参ります。
- ・5月21日(日)は地区協議会が開催されますので次年度会長、幹事さん対応宜しくお願い致します。

◎各委員会報告

◇出席委員会—押田小委員長

本日の出席状況は下記の通りです。

◇スマイルボックス委員会—富岡小委員長

・天候が不順な為、健康管理には十分気を付けて下さ

ロータリーソング 我等の生業

—今月は青少年奉仕月間です—

ロータリーの行動規範
高田 暁 会員



い。富岡、後藤、添田、高橋、荒川(義)、押田、嵐、関川、渡邊(公)、蛭田、星、赤津(善)、荒川(清)各会員及び富澤会長、鈴木副会長、佐藤政司会長エレクト、岩元幹事、小熊副幹事

・前回欠席ごめんなさい。

今泉、高田各会員及び岩元幹事

・本日早退ごめんなさい。

久野会員

◇社会奉仕委員会—鈴木修一郎委員長

皆さん、今日は。社会奉仕委員会よりお話をさせていただきます。いわき市の総ぐるみ運動が6月3日と4日です。ロータリークラブとライオンズさんは公共施設の清掃ということで毎年行っておりますが、それに先駆けて5月31日の早朝例会において6時30分から植田駅前清掃活動を実施したいと思っています。清掃とモニュメントのワックスがけを行いたいと思います。ご協力宜しくお願いします。次にエコキャップの話ですが、21日の地区協議会で回収することになりましたので前日までミドリさんに届けて下されば出席される方に持って行ってもらいます。

◎会員卓話—嵐 繁雄会員

皆さん、今日は。今回は今月が青少年奉仕月間ということですのでお配りした資料にもとづき青少年奉仕についてお話をしたいと思います。資料は昨年地区協議会で青少年奉仕委員会において話し合われた内容を私が記録していたものです。

三春町光善寺

研修に先立ち、今回の会場である光善寺の住職からの挨拶で、「だれでもできるダーナ」について話がありました。ダーナとは、仏教語で「布施」(施し)のことで、法施(真実の仏法を伝え広める)・財施(金

品を分かち合う)・無畏施(恐れを除き、癒しと勇気を与える)・無財の七施(思いやり、支え合う心)などに分け、中でも無財の七施は1眼施(温かいまなざし)2和顔悦色施(にこやかな表情)3言辞施(優しい言葉)4身施(精一杯の行い)5心施(慈しみ深い心)6床座施(人に温かい席を)7房舎施(気持ちよく迎える心がけ)で、いつでも、どこでも、だれでも、自分のできる範囲で実践できるものであり、思いやりのある生き方を示すものです。

・青少年奉仕について

バストガバナー 佐原 元(喜多方RC)

青少年奉仕がローターの原点で、「世の中を汚さない、ゴミを捨てない、悪いことをしない」そうゆう世界を作る子供達を今から育てないといけない。住職の話と同じく思いやりのある心を持つ青少年を育て、皆と力を合わせて良い社会を作りましょう。好きな言葉で「強く優しい男の子。優しく強く女の子。」が有りますが、このような青少年を皆さんと一緒に奉仕活動をして育てる運動をして行きたいと思ます。

・青少年奉仕の意義と役割

青少年奉仕委員長 芳賀 裕(福島中央RC)

地区資金予算で、5大奉仕委員会の中では、青少年奉仕委員会が多く予算が組まれている。それだけロータリークラブでは青少年奉仕委員会に情熱を傾けている。R Iの常設プログラムのほとんどが青少年奉仕に関するプログラムで、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブ、ライラ、青少年交換の各プログラムがあります。ライラは地区で主催するが、そのほかは各クラブで主催するのを地区が支援する立場である。インターアクトクラブは毎年新設されてきていて、次年度も1~2校新設されるだろうと思っている。ローターアクトクラブは7クラブで、学生クラブが3つ、社会人クラブが4つありますが、各クラブで検討しもっと増やして頂きたい。次年度の青少年交換は2人の交換留学生(スペイン・メキシコ)を受け入れる。ロータリー青少年指導者養成プログラムのライラは6月4・5日ホテル華の湯で開催されますが、各クラブから青少年1名とロータリー1名の参加を頂きたい。次年度は会長賞の受賞を目指す「新世代の達成目標」への挑戦をしたい。7つの項目がありますが、年度当初から動いて頂きたい。

・インターアクトクラブとは

次期インターアクト委員長 鈴木かおる

(郡山アーバンRC)

ロータリーが提唱している、12~18歳の青少年を対象とした学校または地域社会をベースとして奉仕と国際理解に貢献することを目標としてのクラブです。支援や指導を与えるロータリークラブによって後援されます。世界の11,000以上のクラブに所属する25万人の青少年会員がいます。名称は「インターナショナル アクション 国際的な活動」という意味の複合です120以上の国や地域に存在し、国際的な青少年のための奉仕クラブです。インターアクトの目的は、奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神のなかで相共に活動する機会を青少年に提供することにある。インターアクトクラブは月に2回の会合を開き、インターアクターが友情と信頼関係を築きながら、楽しく積極的に奉仕活動に参加できるようにし、地域社会のリーダーから指導を受けたり、世代を超えた絆を築きます。インターアクトを通じて

の国際奉仕では交流を深め、国際理解と親善、そして世界の平和を目指す。若い頃からロータリーのプログラムに参加しロータリー精神を理解してもらい、将来的なロータリアンの道筋を作る。現在19校のインターアクトクラブが有り、500人位のアクターが活動している。地区の活動として、2回の連絡協議会、リーダー研修会、年次大会、国際理解研修会があり、インターアクターの健全育成と次世代リーダーシップを伸ばせるように支援しています。

・ローターアクトクラブとは

次期ローターアクト委員長 廣澤 俊樹

(福島南RC)

ローターアクトクラブとは、18~30歳の若年成人を対象に、奉仕を志向する市民と指導者を育成するため、ロータリークラブが提唱する世界的な団体です。名称は「ロータリー(R) 行動(A)」からきています。インターアクトクラブを卒業後、これを継続するものとして1968年に打ち出されました。現在、日本のローターアクトクラブの数は310、会員数は3,300人です。目的は地域社会が必要とする活動をして、地域社会との信頼関係を高める。目標は1リーダーシップの要請。2地域社会での道徳の習得。3地域社会が求める活動の場を若い人達に与える。4スポンサークラブと協同活動を行うこと。5将来の会員となるよう意欲を高めること。こうした目標をもって、専門知識、指導能力、奉仕プロジェクトを若い人達に提供するをローターの使命としてある。

・RYLAとは

次期ライラ委員長 佐藤 演由(白河RC)

RYLA Rotary Youth Leadership Awardsの頭文字をとったもので、日本では「ロータリー青少年指導者養成プログラム」と訳されており、14~30歳までの青少年男女を対象にロータリーが開発した集中研修プログラムです。地区では1979年から取り入れられ今年で37年を迎えます。今年の研修会は6月4~5日に行われますが、是非、各クラブから青少年1名、ロータリアン1名の参加をお願いしたい。

・青少年交換とは

次期青少年交換委員長 大木 和彦(須賀川RC)

若者が海外にいて、一年間ホームステイして、異文化を体験し、親善大使として自国の文化を紹介し、国際理解を深め、世界平和に貢献することです。単なる留学制度ではなく、その国の文化を体験し、友人を沢山つくり、生涯にわたり国際理解を植え付ける機会を提供します。交換学生を受け入れることにより、ホストファミリー・ホストクラブ、及びその地域社会が、学生と長い友好関係を楽しめます。現在は80ヶ国、毎年8,000名以上の学生が参加します。特徴は「ロータリアンの子弟」が参加できるプログラムで、原則として学生を送り出す側が送ってくる学生を受け入れることになっています。留学制度ではなく、「子供の預け合い」による「子育てプログラム」です。現在、日本では150人程度で、カナダ、アメリカ、フランス、メキシコ、ブラジルが主な交換相手でしたが、2011年以降カナダ、フランスが中断しています。派遣学生の資格は、15~19歳で学校長の推薦、両親からの無条件の支援、親善大使としての資質があります。ホストファミリーはロータリアンである必要は無いが、受け入れる学校長の理解必要で、金銭面では地区からの補助金はありません。

出席状況	正会員数 55名 本日の出席率 79.25%	本日出席会員数 42名
------	---------------------------	-------------